

総合地球環境学研究所 2024 年度開始分
実践プロジェクト インキュベーション研究 (IS)・予備研究 (FS)
公募説明会質疑応答集

Q1 共同研究者について、IS から FR へ進展する中で徐々に拡大する形でよいですか。

A1 ご理解のとおりです。IS 段階では最初からチームを必ず作っていただければいけないということではありません。

Q2 長期のプロジェクトとなるため、所属元への貢献度も下げたくないですが、所属元へ説明する際の考えられるメリットはありますか。

A2 FR 移行時にクロスアポイントメント制度を適用される場合の地球研でのエフォート率は、原則として 70%以上としております。

想定されるメリットとしては、プロジェクトリーダーは共同研究員の選定や研究員の雇用等を通して、ご所属先の関連する方にご参加いただくことができるなど、引き続き大学との繋がりを持つことが可能です。また、総合地球環境学を構築するうえで、プロジェクト研究から得られた視点等をご所属先に展開いただけることもメリットと考えております。加えて、クロスアポイントメント制度を適用される場合は、ご所属先において、その規程等に基づき、地球研が負担する人件費等相当分をご活用いただくことも可能です。

Q3 谷口プログラムのアプローチについて、シナジーはどのようなものを想定していますか。

A3 このプログラムでは広いシナジーを考えていますが、様々なところにあるシナジーを我々はまだ見つけることができていないと考えています。例えば、生産・流通過程、分配、消費、廃棄等のプロセスの中でも色々なシナジーがあるでしょうし、環境と社会と経済の中にもシナジーはあると考えています。その意味で、限定したシナジー効果ではなく、幅広い関係性の中でのシナジーを想定しています。

Q4 IS・FS の採択件数はどれくらいですか。

A4 定められた件数は無く、基準に達しているものを採択いたします。

Q5 IS・FSの採択審査員は所内の委員ですか。

A5 ご理解のとおり、審査は所内の会議で所内の委員が行います。

Q6 FRに移行する段階で一定程度スクリーニングされることになりますか。

A6 ご理解のとおりです。

Q7 クロスアポイントメント制度を適用せずに移籍するということは、現所属先を辞めて地球研に所属するということでしょうか。

A7 ご理解のとおりです。

Q8 公募説明会の資料は公表されますか。

A8 公表の予定はございませんが、質疑応答の内容はホームページに掲載いたします。

Q9 共同研究は、地球研の研究者と共同する必要がありますか。また、共同研究者の数はどれくらいを想定すればよいでしょうか。

A9 地球研の研究者がメンバーに入っている必要はありませんので、地球研外の方でチームを組んでいただければ結構です。共同研究員の数はプロジェクトによって様々ですが、これまでで、多いプロジェクトで100人以上、少ないもので20~30人程度となっています。

Q10 IS・FS計画書には、実際に入っていただく方をすべて記載する必要がありますか。

A10 段階を経る中で共同研究員が増加することが多く、IS・FSの申請では、現時点で想定されている組織構成をご記載ください。

Q10 海外の大学に所属している場合、申請の制限等がありますか。

A10 海外の機関にご所属の場合でも制限はございません。

以上